

令和7年度 学校評価報告書 (自己評価書・学校関係者評価書)

令和8年2月5日作成

中期目標	重点努力目標 (評価項目)		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を)
明確な目標をもち、目標達成への過程をより重視した教育活動を展開する。	前向きに取り組む生徒	生徒に活動のねらいを明確に理解させ、肯定的評価を繰り返すことで成功体験を重ね、自己肯定感を高める。	A	A	授業や活動において、振り返りの場面を設定し、学習課題を確認させた。家庭学習の支援として、授業進度を示し計画的に取り組めるようにした。	A	どの学年の生徒もとても落ち着いていて、意欲的に授業に取り組んでいる。先生たちが温かく教えていて、タブレットを活用して授業を行っている。	今後も生徒一人一人に合った目標の提示や支援を行っていききたい。意欲の継続や達成感を実感できるような場面を多く設定したい。3年間を通した生き方教育の充実を図りたい。
	教育活動への参画意識向上	生徒を主役にすえ、個々の考えや声を活動に生かすために個への対話の機会・場の設定を工夫する。	A					
相手を思いやり、尊重し、大切にすることを育てる。	道徳教育の推進	道徳教育を通して、多面的で多角的な考えかたを育てることで、自他を思いやる心情の基礎を育てる。	A	A	生徒主体を意識し、学校生活や行事において、相手を思いやり、協力して取り組む生徒が増えた。生徒、保護者ともに温かい人間関係を肯定的に捉えていることがアンケートからわかった。	A	どの学年の生徒も先生の話や友達の意見をよく聞いている。街頭で挨拶当番をしているが、吉中生は、いつも素直な態度で対応してくれて気持ちが良い。	生徒の心を育てるために、今後も行事や活動の見直しを図り、更に意義ある行事、より質の高い活動を実践し、自己有用感や協働意識を高める取り組みを続けていきたい。
	個を大切に作る学級経営	生徒一人一人との対話や、共感的な人間関係を構築する学級経営を通して、生徒の自己有用感を高める。	A					
	生活サポートの一層の充実	生徒支援部会を中心に、日常から個々の生徒の思いや様子を見とり、できるだけ丁寧に対応する。	A					
学習を展開する。	異なる考えを肯定的に捉える力	各教科の学習を通して、様々な考えを肯定的に受け止める習慣を大切にし、自らの考えを決め直す過程を設ける。	A	A	学習の基礎・基本の定着にも重点を置きながら、学習規律の徹底を図った。魅力的な単元づくりを行い、興味関心を引きだした。	A	中学生のお子さんをもつ近所のかたから、家ではあまり勉強をしないと言う話を聞いた。課題にもしっかりと取り組むように指導してくれるとありがたい。	個に応じた支援に力を入れ、わかるうれしさや学習したことを使える楽しさを実感できる授業づくりを目ざしていきたい。家庭学習への取り組みも支援していきたい。
	課題解決的な授業展開	授業の基礎的・基本的な展開を再考し、丁寧な学習過程を中心にした授業実践を積み上げる。	A					
危険を事前に回避しようとする姿勢を養う。	危機管理の実践力向上	学級指導、講演、避難訓練等の機会を関連づけながら、危機対応の指導を重ね、危機発生時に備える。	A	A	地震・津波の避難訓練を想定して行ったことで、生徒の自然災害への対応意識が高まったことが、アンケートからわかった。	A	校区防災訓練に多くの生徒がボランティアとして参加してくれて大変感謝している。今後も防災リーダーとして中学生には大いに期待している。	今後もより実効性が高い安全教育活動を考え、緊急時の対応力を養っていききたい。命を大切にする教育を継続的に進めていきたい。
	アレルギー等の対応力向上	正しい知識と対処法を理解し、危機回避に努めるとともに、緊急時の対処法を身につけさせる。	A					
多忙感を解消するために、業務の見直しと改善を図る。	ワーク・ライフバランスを意識した勤務	教職員相互に尊重をする雰囲気大切に、心身の健康保持、家庭と勤務との両立を担保し、計画的に各種休暇を取得できるよう配慮する。	A	A	教職員がすすんで退校できるように、月に1日の定時退校日を設定し、計画的に業務ができるように意識改革を図った。	A	先生がたが日々の教育活動でいろいろなことに取り組んでくれているおかげで成果が表れていると思う。	校務分掌の適正化を図り、教職員の負担軽減をよりいっそう進めるとともに有給の積極的な利用に向けた雰囲気づくりを図りたい。
	ゆとりを感じられる職場環境整備	行事・会議のスリム化や計画的な定時退校日の設定を通して、教職員の時間的なゆとりを確保する。						

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】